

令和6年度 鈴鹿市雇用促進連携協議会 会議録

令和6年6月25日(火)午後2時～午後4時

鈴鹿市役所 6階 庁議室

(事務局)

それではこれより、令和6年度鈴鹿市雇用促進連携協議会をはじめます。後ほど自己紹介させていただきますが、協議会の全体進行を務めさせていただきます株式会社名大社と申します。まずはじめに1点だけお知らせがございます。傍聴人、記者の皆様におかれましては、質問がございましたら会議終了後となります16:00以降、個別に産業政策課までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。では、開会に先立ちまして鈴鹿市長より開会のご挨拶がございます。よろしくお願いいたします。

【事項1 開会あいさつ】

(鈴鹿市長)

本日は、お忙しいところ、「令和6年度鈴鹿市雇用促進連携協議会」に御出席をいただき、誠にありがとうございます。また、平素より皆さま方には、市政各般に亘り、御理解と御協力をいただいておりますこと、この場をお借りいたしまして、心から御礼を申し上げたいと思います。さて、本協議会は平成29年度に設立され、今回で5回目の開催となりますが、令和元年度に第4回目を開催して以降、新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を見送りさせていただいておりました。一方で、ここ数年の雇用情勢は、コロナ禍を経て、全国的にいわゆる「売り手市場」が続いており、大都市や地方の垣根を越えた激しい人材獲得競争に加え、生産年齢人口の減少や若年者の市外流出などから新規立地企業や中小既存企業の若年労働者等の労働力確保が懸念されております。また、先日の新聞記事において、新入社員の4割が「転職を検討している」といった内容が掲載されておりました。このような状況の中、本協議会では、喫緊の課題である若年労働者等の人材確保に向け、産学官が連携し、「チーム鈴鹿」として本市の雇用施策の一層の推進を図ることを目的としております。また、本協議会の後半では、グループディスカッションを予定しておりまして、皆様方の活発な意見交換をお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。本日も最後まで、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、鈴鹿市より鈴鹿市雇用促進連携協議会の概要を鈴鹿市産業政策課長よりご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

【事項2 鈴鹿市雇用促進連携協議会の概要】

(産業政策課長)

それでは鈴鹿市雇用促進連携協議会の概要を説明します。平成29年度に協議会を設立しておりますが、設立前の平成28年度に鈴鹿市総合計画2023がスタートすると共に、まち・ひと・しごと創生総合戦略も同年度にスタートしました。これらの計画は人口減少社会に的確に対応していく姿勢を明確にした計画でございました。人口減少、高齢化社会、若年者の都市部流出、売り手市場の中、人材獲得競争も激しくなる中で、今後の変化に対応できる雇用対策の構築に向け、情報共有、連絡調整の場としてこの協議会を設置しております。そして、今年度からリニューアルしました協議会は、鈴鹿市長を会長に、鈴鹿商工会議所会頭を副会長におき、新たに各部会を設置し、本市の雇用対策について、より深く、協議していただきますよう、再編させていただきました。スケジュールも記載しておりますが、これまでとは違った協議会になると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、鈴鹿市長より「鈴鹿 de はたらこっ！プロジェクト」についてご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

【事項3 鈴鹿 de はたらこっ！プロジェクト】

それでは、資料5、鈴鹿 de はたらこっ！プロジェクトについて、私より説明させていただきます。本市では、年間で約60社の企業訪問を行っていますが、訪問時に多くの企業から人材確保に課題を抱えているとの声がありました。企業の安定的な人材確保について先行き不透明な状態が続いている中、人材不足による労働環境の悪化や生産性の低下は企業の成長にも大きく影響を及ぼすとともに、本市の財政や人口増加にも影響が出てまいります。そのような状況において、現実をしっかりと見据えて課題解決に乗り出す姿勢が求められる中、本市では、「鈴鹿 de はたらこっプロジェクト」を創設しました。それでは、プロジェクトを創設した背景について説明します。資料「背景①（鈴鹿市の人口の動向・推移）」をご覧ください。棒グラフの総人口の減少とともに、生産年齢人口も減少していることが分かります。日本の生産年齢人口のピークは1995年とも言われていますが、2015年の本市の生産年齢人口が125,796人、2025年が121,334人、2045年が90,143人と2030年を超えると、急減する推移となっています。生産年齢人口の減少が確実な未来である以上、可能な限りの手法を駆使して事業運営の継続を図る必要があります。こちらの資料は、令和5年度の文部科学省による学校基本調査の結果です。赤字の部分でございますが、三重県における大学進学時の流入・流出率で、流出超過で三重県が全国ワースト2位となっています。大学進学時における人口流出、就職時にそのまま都市部の企業で就職することが多いため、若年層の人口流出、市内企業の人材確保が課題となっています。このような背景を踏まえ、本市が持続的に発展していくためには、加速する人口減少・少子高齢化に対応し、時代の変化を捉えた

まちづくりを進めていくことが必要であると考えており、本市では、今年度から新しい総合計画「鈴鹿市総合計画 2031」がスタートしました。本計画では、将来都市像を、「ひとがつつながら DXで未来を拓く #最高に住みやすいまち鈴鹿」とし、その達成に向け、6つのビジョンを掲げております。そのうち、ビジョン5「持続可能な産業の発展とにぎわいや交流が生まれるまち」では、施策番号5-2にて、「市内に雇用の場が確保され、安心していきいきと働くことができる環境が整っている。」と掲げ、市内の企業が安心して働くことができる環境の整備に努めてまいりたいと考えております。先述のとおり、生産年齢人口の減少や大学進学時の流出超過等により市内企業の人材確保や生産活動への影響が懸念されています。就職活動においては有名企業志向が高まり、学生や求職者が地元企業のもつ魅力やその将来性に触れる機会が少ないことから、地元企業が選択されにくい状況であります。特に市内中小企業においては、採用活動に十分な時間・人員・費用をかけづらく、人手不足に陥る企業が増え、少ない人材で事業を運営しなければなりません。そこで、鈴鹿市では産学官が連携して、「鈴鹿 de はたらこっプロジェクト」により、新たな雇用対策事業を展開していきます。それでは、プロジェクトの概要を説明します。まず中心となりますのが、本日第1回目を開催させていただいております雇用促進連携協議会でございます。鈴鹿市と商工会議所を事務局として、県内の高等教育機関6校、市内企業7社、オブザーバーとして、ハローワーク鈴鹿様や三重県様にも参画してもらい、産学官で連携して雇用対策に取り組んでまいりたいと考えております。その他の事業として、これまで実施してきました合同企業説明会 in すずかやインターンシップ等を開催します。資料にはNEWと記載していますが、主に中小企業を対象とした採用力向上と人材定着に関するイベントとして「地方で生きる中小企業採用力向上セミナー」や市内企業の魅力を学生に発信するイベントとして、大学生向けには「鈴鹿市採用プロジェクト」、高校生向けには「就職体験談イベント」を開催する予定です。また、11月には、東京の三重テラスで「企業立地&雇用サポートフェア」を2日間かけて開催します。そのうち、「鈴鹿 de はたらこっ就職フェア in TOKYO」では市内企業10社程度に参加していただき、首都圏の大学生やUIJターン就職希望者等を対象に就職フェアを開催する予定です。最後に全体スケジュールの案でございますが、本雇用促進連携協議会の実施に加え、大学生向け、高校生向け、企業向けのイベントや、鈴鹿市の各種イベントをご覧のとおりスケジュールで開催予定であり、年間を通じて本市の雇用の促進を図っていききたいと考えておりますので、皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。説明は以上でございます。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、第一部をここで終了します。恐れ入りますが、傍聴人の皆様、記者の皆様はご退出のほど、ご協力よろしくお願いいたします。